

令和5年度 庄内南部定住自立圏共生ビジョン懇談会（会議概要）

- 日 時 令和5年11月20日 午前10時から午前11時10分まで
- 会 場 鶴岡市役所 6階大会議室
- 次 第
 - 1. 開会 : 進行 坂口企画部政策企画課長
 - 2. あいさつ : 上野企画部長
 - 3. 委員紹介 : 進行 坂口企画部政策企画課長
 - 4. 会長・副会長選任 : 立候補・推薦が無かったため、事務局案で武田真理子委員を会長として提案したところ、委員から承認を得て、会長は武田真理子委員に決定した。副会長は武田真理子会長の指名により、山木知也委員に決定した。
 - 5. 協議 : 協議資料説明 大滝企画部政策企画課主任
 - (1) 庄内南部定住自立圏共生ビジョン（第3次）の取組及び改定について
 - (2) その他
 - 6. 閉会 : 進行 坂口企画部政策企画課長

協議での意見等

■医療分野

○委員

・「医師の確保対策の充実」について、現時点でKPI目標値である75名を達成し、予算も鶴岡市で計上してもらい頑張っていると思う。一方で、目標値の75名はこれで十分なのかと思う。日本海総合病院の駐車場には車がたくさん止まっている。自分の会社の従業員が救急車で庄内病院へ運ばれていったが、受けきれないので断られたこともあった。三川町と庄内町と協同して、庄内一円で医療格差が無くなるような施策がこれからは必要になるのではないか。

→（庄内病院総務課長）75名で十分と考えてはいないが、最低でも75名は確保していきたいと考えている。医療は細分化されてきており、庄内病院で対応できない症例があると日本海総合病院へお願いする状況もある。救急車が受け入れられなかった件は、医師が1人しかいない科もあり、その時どのような状況だったかはわからないが、例えば他に医師がいなかった場合もあると考えられる。今後医師確保を様々な形で進めていきたい。

■福祉分野

○委員

・病児・病後児保育施設について、私の会社にも子育て世代の方がいるが施設があまりなくて困るという話を聞いた。利用者の数が見込みづらいこともあり大変だと思うが、キャンセル待ちなどの話もあるようなので、すぐに入れるような環境になれば良いと思う。

→（子育て推進課主幹）病児・病後児保育施設については、現在、当圏域で4施設あり相互利用しているが、定員が限られていることもあり利用できなかったという声もいただいている。現在、利用者の利便性の向上のため、キャンセル待ちの方などの利用にスムーズにつながるように、予約方法の電子化を進めている。

■産業振興分野

○委員

・「地域産材利活用の推進」について、鶴岡市は以前から取り組んでいるようであるが、三川町と庄内町の方は金額の表示が無い。今後の方向性の欄にそれぞれの地域に住宅支援制度があるという記載があるので別の形で取り組んでいるのか。

→（庄内町事務局）県事業で、県産材を利用したものについては補助金の交付を行っている。庄内町の新築住宅の地元産材の利用については、補助等は行っていない状況であるが、地元の木材の利用についてはペレットストーブ等の設置に対して補助金の交付を行っている。

【補足：ペレットそのものは、庄内地方の原木を活用し製品化しているものであるが、庄内町産には限定していない。】

（三川町事務局）三川町でも、県事業で、県産材を利用したものについては補助金の交付を行っているが地域産木材に対しては現在のところ補助は行っていない状況である。

・「地域産材利活用の推進」については、出羽庄内森林組合の組合員に三川町と庄内町の方もいることから、鶴岡市と同じような形で、三川町と庄内町も取り組んでいただけるとありがたいので、鶴岡市で建てている建物や、住んでいる方の話も聞きながら取り組めるものがあるようだったら取り組んでほしい。

○委員

・育苗施設について、庄内町からかなりのご尽力を賜り、やっと運営ができている状況である。株式会社庄内種苗センターが庄内町から指定管理の委託を受け運営しているという状況である。この株式会社庄内種苗センターでは、鶴岡市、三川町、庄内町の圏域全体の花き農家が利用している。庄内町の事業費見込みが0となっているが、鶴岡市よりもご尽力をいただいていると思う。生産振興やコスト削減において、これからもご尽力をお願いしたい。

・牧場の合理化事業についてはコロナ禍で牛肉の消費が伸び悩んでいる。賃金の上昇はあるものの、一般家庭の食費にかけられるお金はかなりひっ迫している状況であると認識している。このため、牛肉の枝肉相場が下落している状況である。生産コストも資材の高止まりで非常に経営的にひっ迫している状況である。国から飼料高騰対策など色々な対策はしてもらっているが、継続できる状態ではないということを確認いただきたいと思う。色々な面で行政から協力をいただきたいし、消費者としてもご協力をいただきたいと思う。

■地域内外の住民との交流・移住促進分野

○委員

婚活対策について、少子化対策として大事なことであると思うが、予算もかかっている
ので、うまく進んでいるのかなども記載があると良いと思う。

→（地域振興課長）

鶴岡市が主催する婚活イベント「つるおか恋するエアライン」では、男性参加者を
当圏域に拡大して実施したが、男性参加者 12 名の内、11 名は鶴岡市、1 名が三川
町の方であった。女性は圏域内に限らず募集をし、鶴岡市の方が 5 名、酒田市の方
が 1 名、遊佐町の方が 1 名、寒河江市の方が 1 名であり、9 組マッチングした。

このほか、「つるおか世話焼き委員会」を通じ、成婚された方は 55 組いる。その内、
「つるおか世話焼き委員会」へ登録している方同士の成婚は 23 組となっている。

■その他

○農政課長（情報提供）

業の担い手育成確保は地方自治体共通の喫緊の課題となっている。鶴岡市には「鶴岡市
新規就農者研修受入協議会」という組織があり、新規就農者と受入れ農家のマッチング
や国の補助金の手続きの窓口となっている。県内だと他に山形県の農業支援センター、
新庄の農林大学校などにその仕組みがあるが、鶴岡市では独自に設置している。

この協議会について、1 市 2 町で連携して取り組めないかという検討を現在事務レベル
で進めている。メリットとしては、新規就農者確保の P R 活動等を圏域で協力して行う
ことができたり、受入協議会に登録している受入農家が拡大し、新規就農者とのマッ
チングが圏域全体に広がることなどが考えられる。また、SEADSなどを会場に、広域連携
の公開講座を実施するなど、メリットが多いため、今後、定住自立圏の農業分野の「具
体的取組」へ加えていきたいと検討している。